

対馬産のネキクロコメツキについて

鈴木 互

〒 211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

Notes on *Ampedus mannerheimi* (Coleoptera: Elateridae) from Tsushima Island, Western Japan

Wataru SUZUKI

Summary. *Ampedus mannerheimi* was proposed by Suzuki (2013) as a replacement name for *Elater basalis* Mannerheim (1852) which is a junior primary homonym of *Elater basalis* Gyllenhal (1817). This is a rare species and has been known from East Siberia, Far East Russia, East China, Mongolia, South Korea and Tsushima Island of Japan. In this short report, it is briefly redescribed and illustrated based on a female specimen found from Tsushima Island.

ネキクロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *mannerheimi* は、極東地域に広く分布する大型のクロコメツキである。本種は最初 Mannerheim (1852) により *Elater basalis* と命名されたものであるが、この学名は最近になって Gyllenhal (1817) の *Elater basalis* により先取されていることが明らかとなり、Suzuki (2013) により上記の学名にあらためられた。

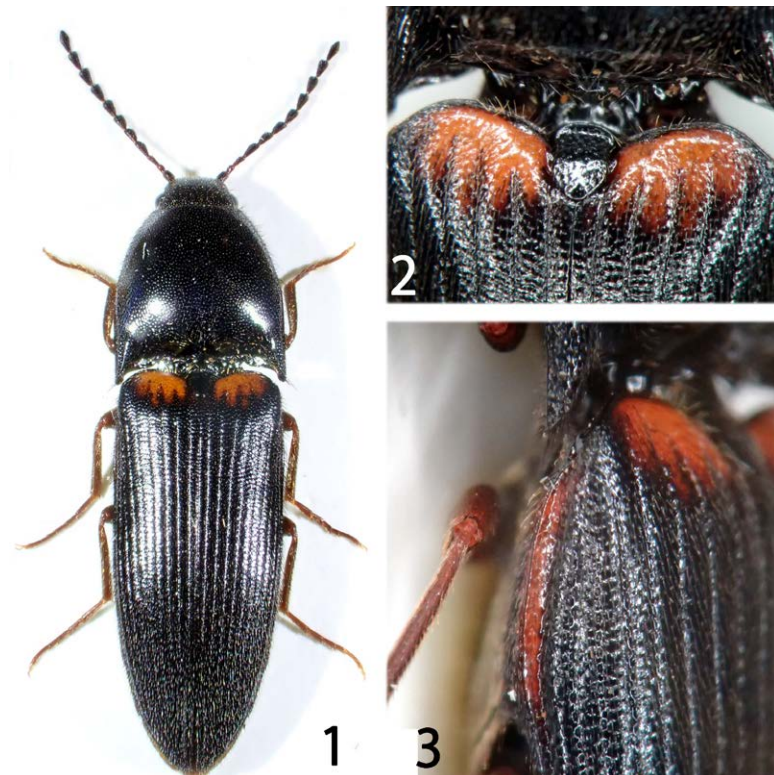
本種は日本からの記録はこれまでなかったが、Suzuki (2013) が本種に対して新名を与えた際に対馬を分布地に加えた。しかし、この記録は、詳し

いデータを伴ったものではなかったもので、ここにデータを明記し、本種について紹介したい。

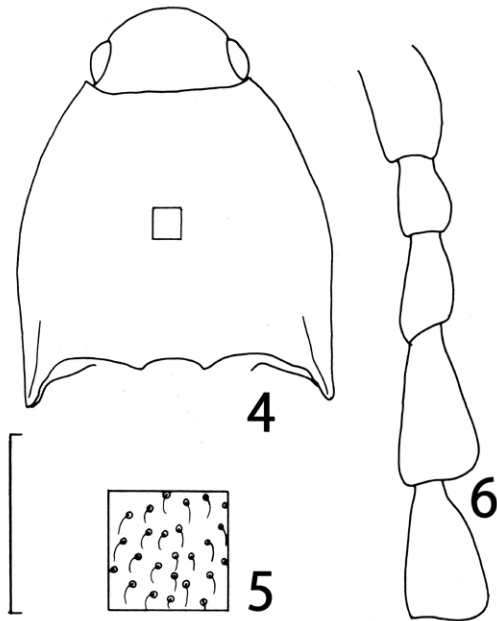
本報告をするにあたり、対馬や韓国の標本をご提供くださった西野久雄、斉藤秀生、妹尾俊男の各氏に厚くお礼申し上げる。

ネキクロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *mannerheimi* W. Suzuki, 2013

♀. 形態. 体長：11.6 mm; 幅：3.3mm. 体は黒



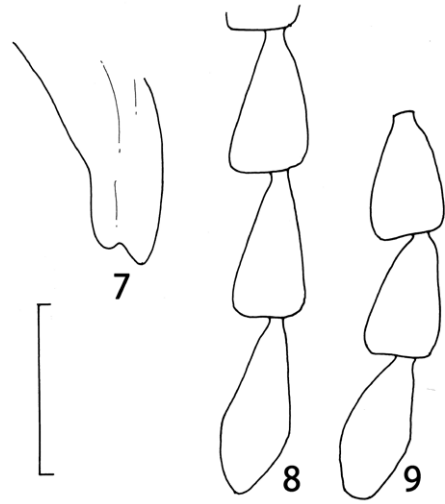
Figs.1-3. *Ampedus* (*Ampedus*) *mannerheimi* W. Suzuki, 2013, from Tsushima Island, ♀. 1, dorsal view; 2, basal portion of elytra, dorsal view; 3, do, dorso-lateral view.



Figs. 4-6. *Ampedus (Ampedus) mannerheimi* W. Suzuki, 2013, from Tsushima Island, ♀. 4, head and pronotum; dors—al view; 5, punctures on the central portion of pronotum; 6, basal four segments of right antenna. Scale: 1.6 mm for fig. 4; 0.5 mm for figs. 5 and 6.

色。触角は黒褐色であるが、2・3節は赤褐色となる。上翅は第2-5間室の基部が熊手形に橙黄色となり、側縁も基部のみ同色となる (Figs. 1-3)。脚は赤褐色であるが、腿節では黒ずむ。毛は、頭胸部背面で黒褐色、上翅では大半が黄褐色であるが、側縁部では黒褐色となる。腹面の毛は寝ており、黄褐色から褐色。頭部は、前縁が中央で強く丸まり、背面は小円形点刻でやや密に被われるが、点刻間は平滑で、光沢を放つ。触角は、長くなく、先端は前胸後角にかろうじて届く程度。2節は幅より長く (1.0 : 1.6)、3節は2節より明らかに長い (1.0 : 1.5)、4節より鋸歯状を呈し、4節は第2節の約2倍の長さ等に等しい。11節は細長い菱形で、幅の約2.6倍、10節の約1.3倍に等しい。前胸背板は、丸みを帯びた台形で、両側は中央部で弧状を呈する (Fig. 4)。中央部で最大幅となり、後角は後方に伸び、外側には広がらない。背面は全体に強く膨隆し、ドーム状。表面は短毛を伴った小点刻で被われ (Fig. 5)、点刻間は平滑で光沢を放つ。小楯板は長い舌状で、基部を除き、膨隆し、表面は細かい点刻を疎らに装う。上翅は条線が明瞭で、間室は全体にわたって粗い横皺を伴う。翅端会合部には微小突起を備える。前胸腹板突起先端部はくの字状に切れ込みが入る (Fig. 7)。

♂。日本では未知であるが、調査できた韓国産の雌雄の間には、雌が大型である以外に、上翅側縁基



Figs. 7-9. *Ampedus (Ampedus) mannerheimi* W. Suzuki, 2013, ♀. 7, prosternal process, lateral view (Tsushima Is.); 8 and 9, apical three segments of left antenna (8: Tsushima Is., 9: South Korea). Scale: 0.5mm.

部の斑紋が雌では発達するなどの違いが認められた。

備考。対馬産の韓国産の雌個体とを比較したところ、日本産の個体では次のような特徴が認められた。上翅基部の橙黄色の斑紋は、発達しないこと (韓国産は、大きく、斑紋の後縁は熊手状にギザギザとらない)、小楯板の点刻はより細かく、疎らであること (韓国産は深く、より密である)、触角は全体に細く、11節は先端部が尖ること (Fig. 8) (韓国産では、全体に幅広く、11節は楕円形に近く、先端部は鈍い) (Fig. 9)。

比較調査できた個体数が日本、韓国ともに少なく、日本産は雄を検査することができなかったため、現時点では上記の違いが個体変異の幅に収まるのか、地域変異によるものなのかの確証は得ることができなかった。今後、雄を含む多くの個体を観ることができれば、この辺の問題を解決できるのではないかとと思われる。お手持ちの標本の中に似たものがあれば、ぜひ、お調べいただきたい。

国内には、体が黒色のクロコメツキは多くの種が、これまでに知られているが、現時点では上翅基部および上翅側縁基部が橙黄色となる種は例がないので、本種の識別は容易にできるだろう。

検視標本：1♀, Mt. Tatera-san, Izuhara-machi, Tsushima Is., Nagasaki Pref., Japan, 5. V. 2007, Hisao Nishino leg. (筆者保管)。

比較検視標本：1♀, near Sinheungsa Temple, Seoakdong, Sokcho-si, Gangwon Prov., South Korea, 1. VII.

1984, Toshio Senoh leg.; 1♂1♀, ditto, 1. VII. 1984, Shusei Saito leg. (筆者保管).

分布：日本（対馬）；東ロシア（東シベリア，極東ロシア），中国東部，モンゴル，大韓民国。

引用文献

Gyllenhal, L., 1817. In: Schönherr, C.J. (ed.): Appendix ad C. J. Schönherr Synonymiam Insetorum Tom. I. Part. 3.

Sistens descriptiones novarum specierum. Scaris: Officina Lewerentziana, 1817. 266 pp., pls. 5–6.

Mannerheim, C. G. von, 1852. Insectes coléoptères de la Sibérie orientale, nouveaux ou peu connus. Decades tertia, quarta et quinta. Bulletin de la Société Impériale des Naturalistes de Moscou, 25(2) [1853–1854]: 273–309.

Suzuki, W., 2013. Two replacement names in the genus *Ampedus* (Coleoptera: Elateridae). Elytra, Tokyo, New Series, 3: 21.

(2016年6月6日受領，2016年9月23日受理)

【短報】滋賀県におけるヒメコガシラミズムシの採集記録

滋賀県におけるヒメコガシラミズムシ *Haliphus ovalis* Sharp, 1884 のこれまでの記録は，クロホシコガシラミズムシ *H. basinotatus* Zimmermann, 1924 の誤同定であったと判明している（村上・中西，2016）。筆者は，滋賀県南部において真のヒメコガシラミズムシを採集したので報告する。これにより滋賀県に産するヒメコガシラミズムシ属は5種となった。

7exs., 滋賀県大津市，19-IX-2016，村上大介採集・保管（図1）。

採集地は，低山地と住宅地に挟まれた溜池である。水域内の植生は乏しく，堤体はコンクリートで護岸されている。一部の岸辺に浅場があり，そこでヒメコガシラミズムシを20個体ほど確認した。この浅場では水中にニッポンイヌノヒゲ *Eriocaulon hondoense* が繁茂しており，ヒメコガシラミズムシ属の幼虫の食草とされるシャジクモ科 Characeae もわずかに生育していた。なお，アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* を複数個体確認しており，水生昆虫への悪影響が懸念される。

この溜池は滋賀県で唯一知られるキイロコガシラミズムシ *H. eximius* Clark, 1863 の生息地であるが（村上・中西，2016），今回キイロコガシラミズムシは数個体しか確認できなかった。ヒメコガシラミズムシ，キイロコガシラミズムシともに今後の生息状況の変化に注意したい。また，周辺地域における両種の分布状況の把握が望まれる。

株式会社ラーゴの平野達好氏に採集地に生育していた水生植物を同定して頂いた。文末であるが御礼申し上げる。

引用文献

村上大介・中西康介，2016. 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ属について。さやばねニューシリーズ，(22): 23–26.

(村上大介 gynacantha_japonica@live.jp)

【短報】クシヒゲクロツツコメツキの雄の記録

日本におけるクシヒゲクロツツコメツキ *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir, 1875) の記録は，中根 (1978)，と鈴木 (2016) の2例があるが，いずれも雌で，国内からの雄の記録はなかった。筆者は，大桃定洋博士からいただいたコメツキムシ類の標本の中に，本種の雄個体を見いだすことができたので，ここに記録しておきたい。

本報告をするにあたり，貴重な標本をご提供いただいた，大桃定洋博士，採集された高橋敬一博士に厚くお礼申し上げます。

1♂，沖縄県石垣島，6-7. VIII. 1998, K. Takahashi leg.

雄は雌に酷似するが，触角第4節～10節の分枝はより細長く，第4節の幹部と分枝を合わせた長さは，第2節と3節の合計の2.4倍（雌は1.7倍）であること（Fig. 1参照），前胸背板基部中央部は

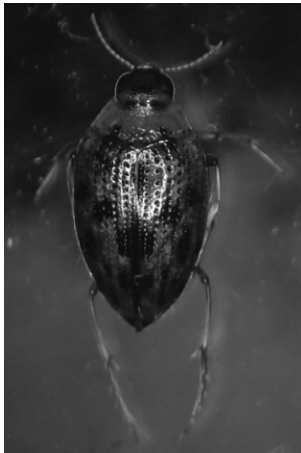


図1. 滋賀県産ヒメコガシラミズムシ。

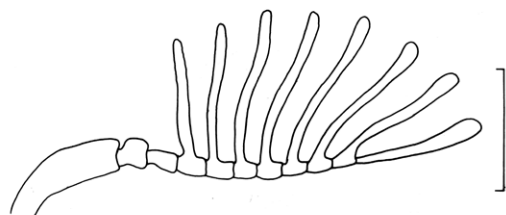


Fig. 1. Right antenna of *Cussolenis mutabilis* (Bonvouloir) from Ishigaki-jima Island, southwest Japan, ♂. Scale: 0.5mm.